

- 1 派遣期日 平成23年10月27日(金)
- 2 研修先 学校名 習志野市立大久保東小学校  
所在地 千葉県習志野市大久保2-12-1  
<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/daitou/>

### 3 研修内容

本校の課題研究では「自分の考えを豊かに表現する学習活動の在り方—PISA型読解力育成のための学習指導の工夫・改善を通して—」というテーマのもとに、文章読解や資料活用の技能、文章表現力を高め、文章や資料から読み取った内容をもとに自分の考えを豊かに表現する意欲を養うことをめざしている。

大久保東小学校では、「表現力」を育成する基本である国語に絞った主題設定であり、また、本校の主題と重なる部分が多分にあることを知った。

そこで、論理的に思考し表現する力を育む学習指導について、どのような授業構成のもと、どのような言語活動を展開しているのか、また発表の仕方にかかわる「話型」をどのように活用しているのかを、児童の学習活動を実際に観察することによって明らかにしたいと考え、同校の国語科公開研究会を参観することにした。

#### (1) 大久保東小学校の研究について

##### ① 研究主題と基本的な考え方

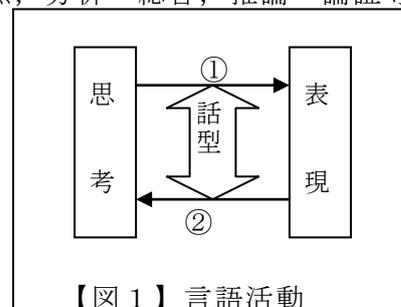
論理的に思考し表現する力を育む国語科学習  
—言語活動の場で話型を豊かに活用することを通して—

論理的な思考とは「文章や話が、前提—結論、または主張—理由というような段落構成、骨組みを整えている筋道立った考えであり、直感やイメージによる考えに対して、比較・対象、分析・総合、推論・論証など、もの、ことの間接関係を認識する考え」としている。

表現の中心は「書き換える、説明する、感想・意見を述べる、批評する等の可視化された言語活動であり、それらを通して、情報の比較・対照、分析・総合、推論・論証等の思考・判断した内容を評価していくもの」としている。

副主題にある話型とは「日常生活において使われる思考の型であり、それを活用することにより、①分かりやすく相手に伝えることができるとともに、②思考した内容を整理し、より確かなものにすることができる【図1】」としている。

同校の基本理念である、表現とは思考の過程や結果を可視化するもので、話型とは論理的に思考する手立てであるとするところに話型の意義が強く感じられた。



【図1】言語活動

##### ② 仮説と手立て

- ・言語活動の場において、話型を習得したり、豊かに活用したりするような場を設定すれば、論理的な思考力と表現力を育むことができるだろう。
- ・話型を豊かに活用した言語活動の中で、適切な評価を取り入れれば、論理的な思考力と表現力を育むことができるだろう。

(手立て) 自己評価, 相互評価, 教師評価 等

- ・日常生活において、基本的な言葉の力を身に付ければ、言語活動の質が高まり、論理的な思考力と表現力を育むことができるだろう。

(手立て) 辞書の活用, スピーチ, 音読, 暗唱, 読書指導 等

同校では、言語活動において話型を活用することを中心とし、その話型を積極的に活用したり、評価したりすることにより論理的な思考・表現をめざしている。また、言語活動の基礎として辞書の活用、スピーチ、音読、読書等を強調していることは大いに参考になる。

### ③ 活用型の学習における言語活動

#### (ア)書き換える＝リライト＝言い換え

述べられていること（情報内容）を視点を変えて言い換える（書き換える）

#### (イ)説明する＝コメント

キーワード（キーセンテンス）は、具体的にはどういうことかを説明する  
なぜ、そのようなことが言えるのか、説明する

筆者がそのように言うのはなぜか、どんな意図があるのか、説明する

#### (ウ)感想・意見を述べる

#### (エ)思索・熟考する

同校では、上記4つの内容の中で、1年目である平成23年度は(ア)と(イ)の言語活動に主に取り組むようにしていた。(ア)と(イ)の言語活動の中で、活用すべき話型を学年に応じて整理し、系統的にまとめた「話し合いの仕方」を各教室に掲示していた。また、話し合いや発表などの学習の場面でそれらの話型が積極的に使えるよう、指導が行き届いていた。

### (2) 大久保東小学校の研究授業について

単元名 第5学年国語「まんがの表現方法を見抜け」（13時間扱い）

学習材 「まんがの方法」教育出版 5年下

同校の公開研究会では、学年ごとに、同単元の異なる授業を各学級が公開しており、単元全体を見通すことができた。主に参観した5学年では、13時間扱いの第1時、第7時、第10時、第12時の授業を見ることができた。

#### ① 第1時（5年3組）

本時の課題は「まんがの面白さの理由を考えよう」である。自分の考えや学習材「まんがの方法」の初発の感想をノートに表現したり、それらを発表したりするのが主な学習内容である。発表の場面において、理由を明らかにして意見を述べることと、意見の違いや共通点について「～と比べて」という話型を用いて自分の考えを述べるよう強調していた。

#### ② 第7時（5年1組）

本時の課題は「『まんがの方法』の内容を表す本の帯を作ろう」である。個別に作った本の帯について付箋を用いて評価し合ったり、話し合ってより良い本の帯を作ったり、グループでの活動が中心である。グループでの話し合いの場面において、「その理由は」「比べてみると」「例えば」など、自分の考えの根拠を述べたり他の意見と比べながら述べたりする話型を積極的に使う児童の姿に、普段の指導がうかがえた。

#### ③ 第10時（5年2組）

本時の課題は「友達の解説のよさを発表し合おう」である。グループで友達の解説文を読み、付箋を用いて評価し合い、全体で発表するのが主な学習活動である。友達の解説文を評価することにより、筆者の主張をさらに深く読み取ったり、自分の解説文を見つめ直したりすることにつながっていた。付箋に書く活動も、自分の考えの表現として手軽に行える有効な手立てだと感じた。

#### ④ 第12時（5年4組）

本時の課題は「まんが家の表現の工夫を見抜き、わかりやすく解説しよう」である。「走れメロス」をまんが化した本を用いて、グループで担当したページの工夫点を話し合い、発表するのが主な学習活動である。グループでの話し合いや発表の場面では、適切なつなぎ言葉（話型）が使えるような助言があり、児童も自然に用いて話ができていた。

## 4 感想

これまで「話型」＝「発表の仕方」という見方しかなかったが、大久保東小学校の実践を参観して、話型が自分の考えを表現するだけでなく、自分の考えやグループの考えをまとめる活動に用いられていることが分かり、有効な活用の仕方を知った。本校の課題研における「発表の仕方」は自分の考えを豊かに表現するための手立てであるが、話し合いの場面で、考えを練り上げたりまとめたりするときに、積極的に用いられるよう実践していきたい。